石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第344号　平成24年6月1日発行

石川県指定文化財　絹本著色十二天図（部分）　長谷川信春筆　正覚院蔵

特別陳列

長谷川等伯とその周辺

■ 百万石大名の装い －甲冑・陣羽織－

■ 染める絵画 －成竹登茂男・堀友三郎－

■ 今様絵合 －近現代日本画に遊ぶ－

会期：6月14日(木)～7月16日(月・祝)会期中無休

- 6月前半の展覧会
- 今月の企画展示室
- 新収蔵品紹介
- キッズプログラム　夏休み体験講座　参加者募集
- 所蔵品紹介
- ミュージアムレポート

特別陳列

長谷川等伯とその周辺

6月14日（木）～7月16日（月・祝）　会期中無休

七尾に生まれた桃山画壇の巨匠、長谷川等伯は先の没後四〇〇年の大回顧展を契機として、近年ますます全国的に人気が高まっています。石川県立美術館には、長谷川等伯の軌跡をたどる上で重要な意義を持つ「十六羅漢図」（霊泉寺蔵・石川県指定文化財）と「日蓮聖人像」（実相寺蔵・七尾市指定文化財）が寄託されていることから、毎年これらの作品を中心として「長谷川等伯とその周辺」と題した特別陳列を開催して、全国の愛好者の要望に応えています。

今年は、長谷川等伯が信春と名のり能登を拠点として活動していた初期の優品と位置付けられている「十二天図」（正覚院蔵・石川県指定文化財）、等伯の四男長谷川左近の「十六羅漢図」（大乗寺蔵・石川県指定文化財）に加え、等伯の画業形成の母胎となった長谷川派による「十六羅漢図」（悦叟寺蔵・七尾市指定文化財）以上の作品を展示する予定です。

この中で悦叟寺蔵の「十六羅漢図」は、霊泉寺蔵の「十六羅漢図」と表現上の共通点が認められることから、等伯に極めて近く、しかも強い影響力を持っていた画家の手によるものと考えられています。この点は、今回の興味深い鑑賞ポイントの一つではないでしょうか。

長谷川等伯　十六羅漢図
霊泉寺蔵　石川県指定文化財

長谷川等伯　日蓮聖人像（部分）
実相寺蔵　七尾市指定文化財

第2展示室

学芸員の眼

長谷川信春と長谷川等伯が同一人物であることは、今日定説となっています。それではなぜ半世紀近く前までこの両者が別人と考えられていたのでしょうか。その理由の一つに「長谷川等伯」と署名した作品や「等伯」の印が押された作品と、「信春」の印がある作品の作風がしばしば大きく異なる点が挙げられます。

長谷川信春が上洛して等伯と名のるまでには、少なくとも十年余りの年月が経過したと考えられています。その期間に、「長谷川信春から長谷川等伯へ」の劇的な転換が進行していったのではないでしょうか。この点については六月十六日の土曜講座で、今回展示される作品をはじめ、具体的な作例に即してお話ししたいと考えております。

前田育徳会尊經閣文庫分館

百万石大名の装い
－甲冑・陣羽織－

6月14日(木)～7月16日(月・祝)　会期中無休

前号の美術館だよりで概要をお知らせしましたが、今年は、五代藩主前田綱紀の甲冑と陣羽織、並びに「軍装図録」を中心に展示します。「軍装図録」とは、文化二年（一八〇五）に牧昌左衛門が、初代利家から十一代治脩まで各代の甲冑や陣羽織等を四帖に収録したものですが、そのなかでも五代綱紀の「軍装図録」のみが、唯一単独で一帖に仕立てられています。この図録とともに現在前田育徳会が所蔵する綱紀の甲冑（一点）と陣羽織（五点）をあわせて展示しますので、武人綱紀の装いの美学を総覧ください。学者大名といわれる綱紀ですが、幅広い文化への造詣が、こうした装いにも象徴的に表れています。これまでは、十四代慶寧所用と伝わっていた「緋羅紗更紗梅紋陣羽織」（写真）が、綱紀の「軍装図録」に掲載されている陣羽織と思われますので、あわせて展示します。江戸時代前半（十七世紀から十八世紀前半）に渡来した更紗（色鮮やかな文様が染められたインド製の木綿布）は、絹織物を主とする渡来裂である「名物裂」にも比肩するほど憧憬されました。前田家では三代利常が「名物裂」を収集していますが、おそらくこの更紗もそうした一連の収集と思われます。また、六代吉徳の甲冑にも名物裂の錦が使用されています。江戸時代をリードした藩主たちの、ファッションセンスをお楽しみください。

緋羅紗更紗梅紋陣羽織

第５展示室

染める絵画
－成竹登茂男・堀友三郎－

6月14日(木)～7月16日(月・祝)　会期中無休

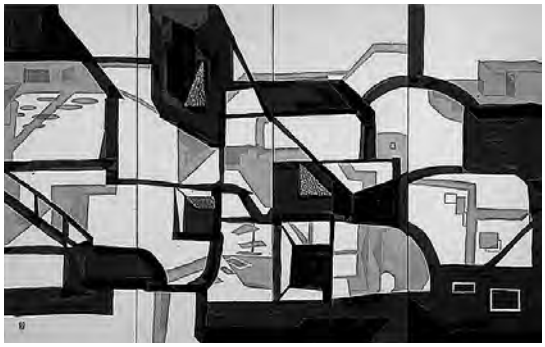
日展の前身である帝展が、昭和二年（一九二七）の第八回展から工芸部門を設けた際、染色部門の出品作品は、タピスリーやパネルなどの平面作品のみで、出品者である図案家がデザインした図柄を、染工が染めるという分業で制作された作品が主流でした。

やがて高い技術と意匠力を持つ作家が現れて、染織部門に着物が出品されるようになりますが、洋画や日本画とも違う、素材感あふれるタピスリーやパネルは、伝統的な屏風や衝立とともに、着物とは別の表現形態の一つとして確立しました。主として日展や光風会など、現代工芸の作家たちが意欲的な作品を発表しています。今回、近現代工芸の特集として、石川県に関わりのある二人の染色作家、成竹登茂男と堀友三郎を紹介します。

金沢生まれの成竹登茂男は、石川県指定無形文化財である、加賀友禅技術保存会会員としての活躍がよく知られています。友禅の人間国宝・木村雨山にも師事した成竹登茂男は、昭和三十～四十年代に日展を中心に出品し、抽象画のようなパネル作品を制作しました。

金沢出身の父を持ち大阪で生まれ育った堀友三郎は、多摩美術専門学校図案科に学び、糊防染による多色染で、明快な構図と色彩、素材による質感を重視した風景画を制作しています。

作風は異なりますが、染色表現の可能性を追求した二人の作家による作品群、二十七点の「染める」絵画をお楽しみください。



窓　成竹登茂男

6月前半の展覧会

漆の美
ー加賀蒔絵を中心にー

5月17日(木)～6月10日(日)　会期中無休

今回の最大の見所は、加賀蒔絵を代表する名工五十嵐道甫と清水九兵衛の競演です。特に五十嵐道甫の作品では、県文「蒔絵螺鈿秋月野景図硯箱」と「籬に秋草図」(重文『古今集清輔本』箱)など、道甫の代表的モチーフである秋草の洗練された表現を。そして清水九兵衛では重文「蒔絵和歌の浦図見台」と「蒔絵淀槌車図硯箱」での絶妙な水波の表現をご堪能いただきたいと思います。そして、これら代表作の比較対照をとおして、両大家の表現様式にゆるやかな共通点があることにお気づきいただけることと思います。その共通点こそが、加賀蒔絵の神髄ではないでしょうか。

重文　蒔絵和歌の浦図見台

6月前半の展覧会

日展金沢展

5月19日(土)～6月10日(日)　会期中無休

日展は長い伝統を持ち、わが国最大・最高水準の総合美術展として親しまれています。

東京の本展出品作の中から、文化勲章受章者、文化功労者、日本芸術院会員、日展理事、評議員、会員などの秀作と、文部科学大臣賞をはじめとする各賞受賞作品を基本作品とし、これに石川県内在住、出身作家の作品を合わせ、約四百点を展示します。

	当日	前売り	団体
一般	一、〇〇〇円	九〇〇円	八〇〇円
中高生	七〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
小学生	四〇〇円	三〇〇円	三〇〇円

【展覧会事務局】
〒九二〇－八五八八　金沢市南町二番一号
北國新聞社事業局内第四十三回日展金沢展事務局
電話　〇七六－二六〇－三五八一

※前号の解説日程に誤りがありました。七ページの訂正をご確認下さい。

第6展示室

今様絵合(えあわせ)
ー近現代日本画に遊ぶー

6月14日(木)～7月16日(月・祝)　会期中無休

絵合は「えあわせ」と読み、源氏物語第十七帖の題名として知られています。源氏物語の「絵合」は、冷泉帝の寵愛をめぐり、源氏が後見する梅壺女御と、源氏のライバル頭中将の娘との対決の場面に用いられました。絵合わせという雅な遊びを借りて、女同士の、ひいては後ろ盾となっている男達の熾烈な戦いが展開されたのです。

さて、古来宮中の遊びでは競い合うことを意味した「合わせ」ですが、本特集では勿論対決を意味するものではありません。取り合わせ、引き合わせ、抱き合わせなど、「合わせ」が下接する言葉は例に事欠きませんし、反りを合わせる、結び合わせる、帳尻を合わせるなど、「合わせる」の用例は豊富で、使い方によって化学反応のように様々な感覚を生み出します。ここでは、複数の日本画を同時に鑑賞することで、一点ずつでは見えなかった視点が見えてきたり、感じることのなかった新たな感覚を味わえることを期待してネーミングしてみました。しかし、このような鑑賞方法は目新しい物ではなく、展覧会では一つの作品が、テーマや文脈に合わせ、持つ意味を変えますし、茶道では寄付と茶室の掛け物を取り合わせることは楽しみのひとつともいえます。

「今様絵合(いまようえあわせ)」とした近現代日本画の展示が、鑑賞される皆様に新たな化学反応を起こすことを期待するものです。

クメール崩壊
里見米菴

大楠公・義貞公誠忠之図
久保田米僊

六月の企画展示室

第7展示室

真愛と平和・日中国交正常化四十年記念・書画交流展

6月14日(木)～18日(月)　会期中無休

今年は日中国交正常化四十周年にあたり日中両国の大家による芸術展「真愛と平和・日中国交正常化四十年記念・書画交流展」は日中交流にとってとても重要なことと思っています。真愛と平和を提唱していくことで日中両国の人々の友好的な感情を促進し、友好を深め、アジアの平和と発展に多大の貢献し世界平和に大きな役割を果たすものと確信しております。両国の芸術家たちの精巧で美しい作品をご高覧くださいますようお願い申し上げます。

◇**入場無料**

◇**連絡先**／東京都新宿区西早稲田一－二三－四
特定非営利活動法人　日中文化・経済交流機構
電話　〇三－六三八〇－二五八三

第7展示室

一陽会石川支部展

6月28日(木)～7月1日(日)　会期中無休

今年、東京六本木の国立新美術館で開催される第五十八回一陽展［十月三日（水）～十月十五日（月）］に向けて、一陽会石川支部のメンバーが出品します。「一陽会は清新にして深奥なるものの創造に勉励し　新時代の美術を推進せんとする　一陽会は先鋭なる未完成こそ推薦し　前人未踏の新分野の確立に努力するものである」

この精神をふまえ、石川支部メンバーの絵画三十五名、彫刻二名が日々研鑽努力し創作してきた、一年間の渾身の成果を展示いたします。美術愛好家の方々にご高覧いただいて、ご教示いただければ幸いに存じます。

◇**入場無料**

◇**連絡先**／一陽会石川支部事務局　竹田明男
電話　〇七六－二四八－五八九八

第7～9展示室

第23回

石川県水墨画協会公募展

6月21日(木)～6月25日(月)　会期中無休
午後5時閉室

石川県水墨画協会は、平成元年度発足、同二年に第一回公募展を開催し今日に至っております。公募展は石川県内の水墨画会諸会派及び一般個人を統合する当協会が行う展示会です。これは、過去の公募展の実績に照らし承認された会員の研鑽の場であると同時に、広く県内より一般公募し、厳正な審査の上入選作を展示し、水墨画の普及発展に寄与することとしております。従って各会派主宰の作品を始め、会員並びに一般公募の意欲的な表現による、楽しみな協会展ならではの作品をご覧いただけると思います。

多くの方々のご来場をお待ちしております。

◇**入場料無料**

◇**連絡先**／能美市高坂町ハ九九の－一一五
事務局長　佐藤　剛
電話　〇七六一－五五－五二九九

第8・9展示室

第34回

伝統加賀友禅工芸展

6月28日(木)～7月3日(火)　会期中無休

加賀友禅技術保存会は現在、十名の友禅作家が会員に認定されており、加賀友禅の正統な技術保存と後継者育成のため、石川県の無形文化財の指定を受けています。その主旨を推進するため、毎年開催しているのがこの展覧会です。

一昨年の三十二回展より公募制を採用したことで、広く一般の方にも出品できるようになりました。

加賀友禅における新しい感性と創造的作品の数々をご覧いただきます。

※毎日午後一時三〇分より作品解説があります。

◇入場料／四〇〇円(三〇〇円)高校生以下無料
※（　）内は二〇名以上の団体料金

◇**主　催**／加賀友禅技術保存会

◇**連絡先**／金沢市小将町八－八
加賀友禅伝統産業会館内伝統加賀友禅工芸展
事務局　電話　〇七六－二二四－五五一一

平成23年度　新収蔵品紹介

平成23年度は、27名の方より総計65点の作品をご寄付いただきました。ご寄附賜りました各位に改めて御礼申し上げます。また、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。このほか23年度には6点の購入と1点の組替があり、3月末日現在の収蔵品総数は3, 161点です。

No.	分類	作品名	作者名	区分
1	陶磁	四方皿　神象	山近　泰	購入
2	陶磁	濤声	山中　國盛	購入
3	陶磁	彩釉鉢・翠澄	徳田八十吉	購入
4	陶磁	緑釉ひさご花器	池上　栄一	池上栄一氏寄附
5	陶磁	緑釉ひさご花器	池上　栄一	池上栄一氏寄附
6	陶磁	緑釉ひさご花器	池上　栄一	池上栄一氏寄附
7	陶磁	緑釉ひさご花器	池上　栄一	池上栄一氏寄附
8	陶磁	鴨徳利（大）	池上　栄一	池上栄一氏寄附
9	陶磁	鴨徳利（小）	池上　栄一	池上栄一氏寄附
10	陶磁	壺　珠洲焼		米林甲陽氏寄附
11	漆工	県文　蒔絵亀図鞍・鐙	伝清水九兵衛	購入
12	染織	友禅訪問着「爽やぐ」	柿本　結一	購入
13	染織	友禅訪問着「讃歌」	藤田　美紀	購入
14	染織	友禅着物「寒瀑」	二塚　長生	二塚長生氏寄附
15	染織	友禅着物「波動」	二塚　長生	二塚長生氏寄附
16	染織	友禅着物「雨あし」	二塚　長生	二塚長生氏寄附
17	染織	友禅着物「新潮」	二塚　長生	二塚長生氏寄附
18	木竹	桑・黒柿造片身替色紙箱	氷見　晃堂	飯野郁子氏寄附
19	木竹	黒柿造短冊箱	氷見　晃堂	飯野郁子氏寄附
20	木竹	鉄刀木茶杓	氷見　晃堂	飯野郁子氏寄附
21	木竹	桑造高卓	氷見　晃堂	飯野郁子氏寄附
22	日本画	転た寝	百々　俊雅	百々俊雅氏寄附
23	日本画	春雨山水図	垣内　雲鱗	山﨑　繁氏寄附
24	日本画	旭日稚松図	垣内　雲鱗	山﨑　繁氏寄附
25	日本画	雨中帰漁図	玉井　紅鱗	山﨑　繁氏寄附
26	日本画	牛遊之図	鈴木　華邨	山﨑　繁氏寄附
27	日本画	河北潟遊図	岡田　琴湖	山﨑早苗氏寄附
28	日本画	越の村里	原田　太乙	組　替
29	日本画	猿	大豊　世紀	大豊世紀氏寄附
30	日本画	観音	坂根　克介	坂根克介氏寄附
31	日本画	舞	坂根　克介	坂根克介氏寄附
32	日本画	エピローグ	中江　悦子	中江悦子氏寄附
33	日本画	凪	中出　信昭	中出信昭氏寄附
34	日本画	二人の航海	中出　信昭	中出信昭氏寄附
35	日本画	かえりみち	西　敏彦	西　敏彦氏寄附
36	日本画	ベンチ	仁志出龍司	仁志出龍司氏寄附

No.	分類	作品名	作者名	区分
37	日本画	磯	平木　孝志	平木孝志氏寄附
38	日本画	游	平木　孝志	平木孝志氏寄附
39	日本画	心魂	日影　圭	日影　圭氏寄附
40	日本画	汎	日影　圭	日影　圭氏寄附
41	日本画	うねる	山田　毅	山田　毅氏寄附
42	日本画	刻の堆積	古澤　洋子	古澤洋子氏寄附
43	日本画	未来の化石	古澤　洋子	古澤洋子氏寄附
44	油彩画	野の風	立見　榮男	立見榮男氏寄附
45	油彩画	河童遊々	立見　榮男	立見榮男氏寄附
46	油彩画	雷神	立見　榮男	立見榮男氏寄附
47	油彩画	竜神雷神逍遙	立見　榮男	立見榮男氏寄附
48	油彩画	防波堤の道	堀場　良夫	堀場昭一氏寄附
49	油彩画	紙つぶての多聞天	堀場　良夫	堀場昭一氏寄附
50	油彩画	ばあちゃん　どうして	堀場　良夫	堀場昭一氏寄附
51	油彩画	ステルスとAyaka	前田　昌彦	前田昌彦氏寄附
52	油彩画	いざない'07（Ⅱ）	前田　昌彦	前田昌彦氏寄附
53	油彩画	いざない'10―跡	前田　昌彦	前田昌彦氏寄附
54	油彩画	雪の山	堀　忠義	村上豊子氏寄附
55	油彩画	斑雪	村田　省蔵	村田省蔵氏寄附
56	油彩画	凛として	村田　省蔵	村田省蔵氏寄附
57	油彩画	羽化する人	五味　祥子	五味祥子氏寄附
58	油彩画	羽化する人	五味　祥子	五味祥子氏寄附
59	油彩画	水門のある風景	松下　久信	松下久信氏寄附
60	油彩画	丘への道	松下　久信	松下久信氏寄附
61	油彩画	早春の福浦港	松下　久信	松下久信氏寄附
62	油彩画	ささやき	藤井多鶴子	堀内壽子氏寄附
63	彫塑	潮騒	谷村　俊英	谷村俊英氏寄附
64	彫塑	祭り詩	谷村　俊英	谷村俊英氏寄附
65	彫塑	大地の彼方に	谷村　俊英	谷村俊英氏寄附
66	彫塑	女	米林　勝二	岩本洋司氏寄附
67	彫塑	みのり	米林　勝二	米林甲陽氏寄附
68	彫塑	首（女）	米林　勝二	米林甲陽氏寄附
69	彫塑	首（男）	米林　勝二	米林甲陽氏寄附
70	彫塑	首（ひげの男）	米林　勝二	米林甲陽氏寄附
71	彫塑	首（女）	米林　勝二	米林甲陽氏寄附
72	彫塑	人物座像	朝倉　文夫	米林甲陽氏寄附

キッズプログラム
夏休み体験講座　参加者募集！

夏休みに美術を楽しんでいただく小学生親子対象のプログラムです。親子で共に制作できる楽しいひとときを過ごしてみませんか？

今年度は、低学年・高学年の二講座、また、どちらの講座も午前（十時開始）・午後（十四時開始）の部があります。午前・午後のどちらの部にご参加いただくかは美術館にお任せ下さい。

◆一・二・三年対象

「絵の具マジック！」　7月30日（月）

定員：午前・午後各回二〇組　計四〇組（八〇名）

参加費：親子二名七〇〇円

筆だけではない絵の具の楽しい表現を体験してみよう。

◆四・五・六年対象

「ラッキーデザインで九谷焼！」　8月3日（金）

定員：午前・午後各回二〇組　計四〇組（八〇名）

参加費：親子二名で一五〇〇円

古九谷のデザインを参考に、ラッキーデザインの九谷焼の皿を制作してみよう。（協力：能美市九谷焼陶芸館）

○体験講座お申し込み方法（往復はがき）

【往信の宛名面】〒九二〇－〇九六三　金沢市出羽町二－一
石川県立美術館　普及課宛

【往診欄の文面】
・参加希望する講座名
・保護者・児童の氏名、学年
・住所、電話番号

【返信の宛名面】住所、お名前

【返信の文面】何も書かないでください

応募締め切り　七月六日（金）必着

＊定員を上回った場合は抽選となります。結果は返信はがきでお知らせいたします。

＊体験講座にご参加の方で、未就学のお子様（一歳以上）をお連れの方を対象とした託児サービス（無料）を用意しています。

行事予定

■土曜講座　午後1時30分～　美術館講義室　聴講無料

6月16日(土)	長谷川信春から　長谷川等伯へ	村瀬博春　担当課長
6月23日(土)	前田家の美意識 ―大名の装い―	高嶋清栄　学芸第二課長
6月30日(土)	染める絵画　成竹登茂男と堀友三郎	寺川和子　学芸主査

■ビデオ上映会　午後1時30分～　美術館ホール　入場無料

6月3日(日)	創作のエネルギー　ミケランジェロ／円空	30分
	黄金の輝き　クリムト／光琳	30分
6月17日(日)	抽象への道　カンディンスキー／ムア	30分
	楽園のイメージ　アンリ・ルソー／田中一村	30分

■百万石の文化講座　午後1時30分～　美術館講義室　聴講無料

7月1日(日)	第1講　前田利長・利常と前田氏庶子の命運 ―前田利好・知好・直之―	見瀬和雄　金沢学院大学教授

次回の展覧会

会期：七月十九日（木）～八月二十八日（火）

前田育徳会尊経閣文庫分館	平清盛とその時代
第2展示室	古九谷の美とその流れ
第6展示室	きこえてくるよ

会期：七月二十八日（土）～八月二十六日（日）

企画展示室	孤高の画家　田中一村展

訂　正

前号7ページの作品解説日程と6ページコレクション展示室の会期に誤りがありました。関係各位をはじめ、皆様にご迷惑をおかけ致しました。訂正し謹んでお詫びいたします。

■7ページの日展の正しい作品解説日程は、5月21日(月)、23日(水)、25日(金)、28日(月)、30日(水)、6月1日(金)、4日(月)、6日(水)、8日(金)です。

■6ページのコレクション展示室の正しい会期は4月22日(日)～5月13日(日)でした。

高原　こうげん　昭和53年（1978）　第10回日展　縦112.3cm×横145.5cm

所蔵品紹介225

堀 友三郎　ほり・ともさぶろう　大正13年（1924）～

作者が清里高原に取材した作品です。画面のほぼ左半分に走り抜ける牛を配し、牛の姿を透して空と遠方の山なみが広がっています。どこか物憂げで厳しい表情を見せる牛は、筋肉の輪郭をなぞるように太い線で描かれ、古代の石像や抽象彫刻を思い起こさせることから、実際に牛が駆ける風景というよりは、かつてこの高原を駆けていたたくさんの牛たちの幻のようです。

染料の持つ透明感を生かした重ね染めによって、奥行きを加える表現は作者独特のもので、糊による防染、インジゴゾールという染料を用いた日光発色法での染色、水洗いを何度も繰り返した、丹念な作業からなる技法です。牛の輪郭線と雲の大きな湾曲、山の稜線がリズミカルに交差し、作者の非凡な構成力がうかがわれます。これらの明快な線と面の構成に、筆で力強く描かれた雲のうねりが不規則な動きを加え、標高の高い土地で断続的に吹き抜ける風の存在が感じられます。

作者の堀友三郎は、大正十三年大阪府に生まれました。父は金沢出身で、昭和十六年に多摩美術専門学校図案科に入学、木村和一に師事して、十九年光風会展に初入選しました。三十一年に日展初入選、三十五年日展特選北斗賞をはじめとして数々の受賞を重ね、現在は光風会名誉会員、日展参与となっています。また多摩美術大学などで教鞭をとり、後進の指導にも尽力しました。

第五展示室特集「染める絵画　―成竹登茂男・堀友三郎―」で展示中

ミュージアムレポート

四月二十三日（月）、中国陶磁名品展開会記念式典が行われ、ご臨席された高円宮妃久子さま（写真左から一番目）、鳩山幸氏らが中国陶磁名品展に引き続き、国宝色絵雉香炉など当館コレクションをご鑑賞されました。

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　350円（280円）
大学生　280円（220円）
高校生以下　無料
※（　）は団体料金
毎月第１月曜日はコレクション展示室無料の日（6月は4日）

6月の開館時間
午前9：30～午後6：00

カフェ営業時間
午前10：00～午後7：00

6月の休館日は
11日（月）～13日（水）

広告
明治10年8月、加賀藩 前田家の出資により創業。
金沢支店　〒920-8686　金沢市南町5-28　TEL.076-263-5131
www.hokugin.co.jp
お客さまの「うれしい」を、私たちの「うれしい」に。北陸銀行

石川県立美術館だより
第344号（毎月発行）
2012年6月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています